

ドイツの地方都市パッサウにおける難民の言語学習

慶應義塾大学 政策・メディア研究科
修士課程 2 年 荒木萌

1. 活動の概要とリサーチクエスチョン

2015 年、16 年と大量の難民を受け入れたドイツでは、国として難民の社会統合を目指した制度の改編を行われ、地域でも難民支援ボランティアが盛んに行われている。また、2005 年の新移民法施行から移民・難民の社会統合を目指した、ドイツ語コースとドイツの法制度や文化を学ぶオリエンテーションコースで成っている統合コースが国主導で行われている。しかし、難民の大量流入の影響で統合コースの需要が増え、受講を長く待たなければならない事態が発生した。統合コースの受講資格を持たない人や家庭や宗教上の事情で統合コースに通うことができない人など、ドイツに暮らしながらドイツ語を学べない人もいる。

しかし、ドイツには統合コースのようなドイツ語教育以外にも、立場や法的地位によらずに参加できるボランティアの学習支援活動がある。ボランティアの学習支援活動には資格のないドイツ語学習支援者がドイツ語を講義形式で教える活動や、ドイツ人と移民・難民がドイツ語で交流する活動などがある。

本活動では、ドイツに 2015 年以降流入した難民の言語学習に焦点を当てて調査を行った。調査者は 2017 年夏、18 年冬にもドイツで同様のテーマで連邦移民難民局やドイツ語学習に携わる民間のドイツ語学校、ドイツ語学習に関与するボランティアにインタビュー調査を行っている。支援する側に対する調査が大半であったが、官民どの団体組織でも難民流入の影響で難民のニーズに合わせてドイツ語コースの再編を行い、ボランティアの活動も盛んになっていたことが分かった。

そこで本年度は難民を視座として、様々な官民の団体組織の中で実際に難民はどのようにドイツ語を学んでいるのかという問いを立て、難民のドイツ語学習のプロセスに焦点を当てて調査を行った。またインタビューの中で、すでに調査を行った団体組織の活動に対する評価についても伺った。

2018 年 7 月 31 日から 8 月 23 日の約 3 週間をかけてドイツのパッサウ市で、計 11 人の難民にドイツ語学習のプロセスについてインタビューを実施した。

	性別	出身国	年齢	学歴	現在の職業等
A	男性	シリア	28	法学 3 年専攻	大学でドイツ語学習。ボランティア団体で有給勤務
B	男性	アフガニスタン	-	-	ピザ屋勤務
C	男性	シリア	28	-	大学で勉強を始める準備
D	男性	アフガニスタン	21	中学校卒業	セキュリティの職業訓練

E	男性	シリア	30	経営学4年専攻	大学で勉強を始める準備
F	女性	シリア	-	考古学学位取得	専業主婦(子供なし)
G	男性	シリア	22	経済学1年専攻	大学で勉強を始める準備
H	男性	シリア	20	-	大学で勉強を始める準備
I	男性	シリア	28	-	大学生
J	男性	アフガニスタン	21	6年生まで通学	塗装の職業訓練
K	男性	アフガニスタン	20	なし	調理人として勤務

※ インタビュイーの属性が「男性」「シリア・アフガニスタン出身者」と偏りが出てしまったが、それも踏まえたうえでの分析、執筆を行っていきたい。

2. 活動の成果

「2015年以降にドイツに難民としてやってきてB1レベルのドイツ語能力をもつ人」を対象に、ドイツにやってきてから現在までのドイツ語習得やドイツ人、ドイツ社会との関わり合いをインタビューで伺った。まだインタビューすべてを文字起こし・分析できたわけではないので暫定ではあるものの、このインタビューを通して分かったことは、大別すると2つある。

1つ目は、今回インタビューを行った難民の大半はボランティアによるドイツ語教室や交流プロジェクトには参加せず、統合コースや難民向けの大学プログラム、ドイツ人との関わり合いによってドイツ語を習得しているということだ。しかしこの結果は、シリア出身のインタビュイーが多かったことが影響している可能性も否定できないⁱ。

2つ目は、日常生活ではドイツ人との関わり合いは少ないが大学で勉強を始めると関わりが増え、ドイツ語能力の向上に影響を与えているということだ。これから大学で勉強する難民も、現状のドイツ語使用頻度は満足していないが、今後は増やしていきたいとドイツ語使用が増えることに期待する人が多くいた。

3. 今後の展望

今後は、インタビューの文字起こしとM-GTAによる分析を進め、修士論文を執筆する。また、2018年のオープンリサーチフォーラムで調査結果を発表したいと考えている。

4. 謝辞

本活動の実施に際し、ご指導いただいた平高史也教授をはじめ、お話を聞かせてくださった難民の方々、そして資金面にてご支援いただいた湘南藤沢学会様に厚く御礼申し上げます。

2018年9月23日 荒木萌

ⁱ シリア出身の難民は、他の国々出身の難民よりも比較的高学歴で、ドイツでも庇護申請者のうちから統合コースを受講できる権利を持っている。